

事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社 萩・森倫館

事業名称1：里山賃貸住宅事業

あらすじ（概略）

里山や伝建地区など萩の地域特性を有するエリアにて、萩産の木を利用し、木を現して作られた木造賃貸住宅を地域の事業者（林業事業者、木材加工事業者、工務店、職人など）と連携し設計・施工し、地域住民に萩の木により創られた住空間体験を提供・発信することで、木のある暮らしの価値を高め、地域資源循環を促すきっかけを生み出す。

ストーリー

萩の木を活用した「木のある暮らし」の実際に空間として構築し再提案をすることで、木のある暮らしの価値を変えていく。
また、木を体感できる空間を賃貸住宅で提供することにより、若年層や子育て世代の木質空間への入居ハードルが下がり、これから生まれる子ども達へ木のある暮らしの原体験が提供でき、更にこれから住宅を立てる世代への訴求が可能となる。

地域特性を有するエリアにて、地域産材を活用し、地域の事業者と連携することで、資源・経済が循環するだけでなく、風土・文化・伝統・技術の継承・循環を促す礎となる。

さらに、当事業により萩の暮らしの価値が域内・域外に再認識されることにより、関係人口創出やU・Iターン希望者の創出も期待できる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	風土・文化・伝統・技術の継承、循環していく地域、持続可能な森林資源の循環、森と共生するまちの暮らし	・資金調達、出資者の確保 ・暮らしを再提案する設計者の確保 ・エリア・敷地・物件等の選定
②課題	地元産木材の利用・価値低下、木に触れられる機会の減少、地域産材利用PR不足、伝統工法の家づくり減少による技術継承の断絶・職人の減少	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	木のある暮らしの触れられる機会（原体験を作る）、リーズナブルに入居できる機会をつくり、森・木と共にある暮らしの価値向上、技術・文化の継承	
④地域資源	豊富な森林資源、重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする歴史的な建築物・街並み、災害の少ない住みやすい街	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	木質空間を体感できる賃貸住宅を提供	
⑥担い手（Who）	萩・森倫館、市役所、市内工務店、製材所、林業事業者、職人ほか	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	木のある暮らしの価値向上、風土・文化・伝統・技術継承のきっかけ ⇒ 地元産木材の利用増加、地域産業の認知 ⇒ 山～街の木材資源循環、炭素固定化の促進、若年層からの新規就業者 ⇒ 継続的な林業・木材加工業の実現 ⇒ もりとまちとひとがつながる持続可能な地域づくりへ	・市役所 ・地主、家主、不動産事業者 ・事業に賛同してくれる事業者 ・金融機関
⑧事業で生じる成果	川上～川下の産業間連携増加 森・木と共にある暮らしの価値向上、風土・文化・伝統・技術・経験の継承・蓄積	

事業名称 2 : 木のある暮らし価値創造事業		
あらすじ		
地域産木材を使用した可動式木質空間の展示と木造住宅のたてかた見学会を行うことで、「木のある暮らし」を知ってもらう。まずは地域産材の認知から始め、木のある暮らしの価値を創造することで地域産材利活用の需要を生み、森林資源の持続可能な循環へと繋げる。		
ストーリー		
木造文化の衰退、また生活様式の変化から日々の暮らしの中で木に触れる・使う機会が少なくなり、森や木の価値が低下している。今まで取組が不足していた木材活用のニーズを生み出す活動の第一歩として、地元森林組合・製材所・工務店と協力し、市内で定期的に行われるイベントや祭りでのPR、地域住民を巻き込んだたてかた見学会を行うことで、日常の中で木を見る・活用の意義を知る機会を提供する。木の価値を高め、森と共にある暮らしが地域に根付き、森林資源が循環利用されることを目指す。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	持続可能な森林資源の循環的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で建てられる建築物の棟数が限られる ・たてかた見学会を行うことの施主への理解 ・予算の確保 ・コロナによるイベント開催への影響
②課題	木造文化の衰退、木に触れる機会の減少、地元材の価値の低下、川上～川下事業者の連携不足	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	木のある暮らしの価値を創造することで、木材需要を喚起し、資源・経済の域内循環を構築するため	
④地域資源	豊富な森林資源、伝建地区をはじめとする歴史的な建築物・街並み、定期開催されるイベント・祭り行事、歴史・伝統を守る風土、域内で完結する木材生産体制	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	地域産材を使用した可動式木質空間を用いて、市内で定期的に行われるイベント・祭りに出展し、地域産材の魅力や活用意義を広くPRする。また、木材事業者と連携し上棟時のたてかた見学会・餅まちを地域住民向けに開催することで、普段見る機会が少なくなった木造建築物の建築過程を知ってもらう。	
⑥担い手 (Who)	萩・森倫館、森林組合、製材所、工務店、萩市林政課	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ①地域産材の認知度up⇒地域産材流通量増⇒地産地消文化の定着 (⇒外部に流出するお金の減少⇒地域経済活性化) ②祭り行事のにぎわい創出⇒地域の伝統・文化の振興・継承⇒地域への愛着UP⇒地域資源の利活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・萩市商工観光部 ・市内外工務店
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> 木材流通事業者の連携強化 「木のある暮らし」の価値向上 	

事業名称 3 : 山・森・木材で遊べる場づくり事業

あらすじ

地域の山・森・木材で遊ぶ・体験できる機会を創出することにより、気がるに・身近に自然資源に触れることで、私たちの暮らしを支える自然資源の価値を再認識し、森と共にある暮らしの普及啓発や、地域資源循環の根底となる考えの定着を図る。

ストーリー

里山文化の衰退による森へ関わる機会の減少、木質空間住宅の衰退による林業事業者・木材加工事業者の減少により行き届かない森林整備、などといった状況により豊富な森林資源があっても使い方・関わり方がわからない状況にある。木材を中心とした森林資源および自然資源が保全され循環していくためにも、自然資源への価値を再認識する機会を提供し根底となる考えの定着を図る。ポイントは「まず山に、森に、木材に触れてみる・遊んでみる」と、カジュアルな関わり方から、木・森に関心人口を増やしていく。価値観が醸成されることで、自然資源だけでなく、地域・地球・環境への影響など、異なるレイヤーやより広域な循環などへの波及も期待できる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありたい未来	持続可能な森林資源の循環、森と共生するまちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・低未利用施設のリニューアルおよび活用許可 ・運営体制、プレイヤーの発掘 ・提供サービスの開発 ・持続可能な森林公園経営の仕組みづくり
② 課題	秋の森にどんな樹があるか知られていない、不在村・細分化された山・山主不明・放置林・未再造林といった森林整備の問題、持続的な森林資源の利活用ができていない、森林公園の老朽化、山への低関心	
③ なぜこの事業をやるのか (Why)	私達の暮らしを支える自然資源の価値を再認識し、自然資源との付き合い方を学ぶ・考えるきっかけを作るため	
④ 地域資源	豊富な森林資源、街と森の近接性、海・山に囲まれた地形、利用が少なくなった森林公園「田床山」・キャンプ場	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容 (What)	森林公園「田床山」・キャンプ場等の低未利用施設を活用した山・森・木材で遊べる体験サービスの提供。例えば、具体的には、林業体験、焚き火体験、環境教育、山菜・きのこツアー、ツリーハウス、キャンプ、など森林サービス産業に類するもの。	
⑥ 担い手 (Who)	(株) 萩・森倫館、市役所、教育事業者、森林サービス事業者、森林組合、大工等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	山・森・木材で遊ぶ・体験できる機会⇒親子そろって自然資源への認識創出⇒環境へ配慮した暮らし、木のある暮らしへの動機、自然保全活動参加への動機⇒環境共生の価値観が定着し森と共にある暮らしが当たり前	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育に知見のある方 ・教育者 ・森林サービスに知見のある方 ・市役所 公園緑地課
⑧ 事業で生じる成果	持続可能な親山・森空間の実現 森と共にある暮らし、木のある暮らしの価値向上	